

地域内フィーダー系統 事後評価要約版(30年度)

支局	No.	自治体・協議会名	二次評価
		事業概要	
		自己評価	
		明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会	
岐阜	34	上矢作線	
		<p style="text-align: center;">中部様式並びに本省様式による</p>	
			<p>地域内フィーダー系統路線は目標値を達成することができ ており、明知鉄道との乗り継ぎ改善や利用促進に取り組んだ ことの成果が見られます。また、基幹路線である明知鉄道で は、ドラマとのタイアップや企画列車の運行などによる効果 が見受けられます。                      今後は観光利用に加え、地域住民の利用も促進されるよ う、更なる取り組みに期待します。                      地域公共交通網形成計画の期間が満了することから、次 期計画の策定に向けて、実施主体である関係者との連携を 密にさせていただき、実効性の高い事業構築について検討さ れるよう期待します。</p>

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

# 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 平成26年6月12日 確保維持計画策定

## 1.協議会が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

基本目標：みんなで乗ろう！乗って次世代へつなげよう！  
快適で円滑な公共交通ネットワークづくり

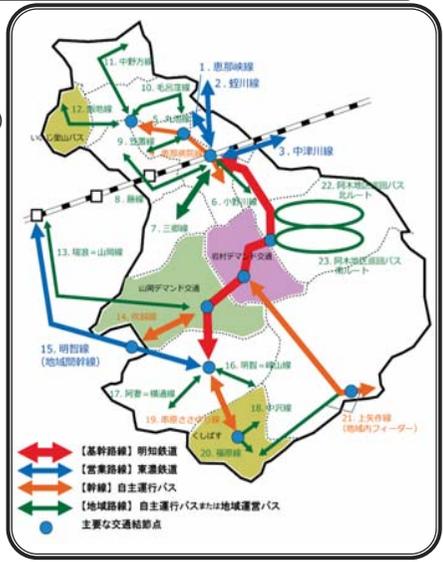
### 【地域の特性】

- ・恵那市・中津川市は、山間地が多くを占める岐阜県東濃地域に位置している。
- ・恵那市の人口は50,575人（H30.10.1現在）、中津川市阿木地域の人口は2,216人（H30.10.1現在）

【明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画】  
期間 平成26～30年度

### 基本方針

- ① 明知鉄道の基幹路線としての機能強化と新たな魅力の創出
- ② 基幹路線とその支線となる交通機関との連携強化
- ③ 公共交通を未来に「つなぐ」ため地域住民との連携強化
- ④ 公共交通とまちづくり・観光振興との連携強化
- ⑤ 地域公共交通運営組織間の連携強化



## 2.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容 (Do)

### ① 明知鉄道の基幹路線としての機能強化と新たな魅力の創出

- 【具体的施策】明知鉄道の「強靱化」
- ・車両の更新 → 平成29年度、平成30年度（計2両）
  - ・線路設備 → 平成26～30年度（レール交換、枕木交換、橋梁改修）
  - ・防護設備 → 平成26～30年度（土構造物改修、線路側溝新設、排水設備改修）



明知鉄道HPより

### ② 基幹路線とその支線となる交通機関との連携強化

- 【具体的施策】鉄道との乗継を考慮したバス路線網の再編（明知鉄道と上矢作線の連携強化に向けた改善と利用促進）【補助】
- ・中学3年生に対するの啓発（計2回実施）
  - ・アンケート調査を行い改善につなげる（毎年12月実施）
  - ・バス車両更新の機会を活用し乗り方教室を開催（12月に3回実施）
  - ・観光に適したルートと新規バス停の設置（1ルート、3ヶ所）



### ③ 公共交通を未来に「つなぐ」ため地域住民との連携強化

- 【具体的施策】利用促進活動の実施（3Kサポート ①：高齢者 ②：高校生 ③：観光客）
- ①：公共交通利用促進の呼びかけ（H29：6回開催：344人 → H30：14回開催：712人）
  - ①：孫とおでかけふれあい列車の運行（H29：43日間：522人 → H30：3期計87日間：第1期776人）
  - ②：夏休み割引きっぷによる支援（H29：325人 → H30：462人）
  - ③：「半分、青い。」に関連した列車の運行（4～9月：定期外利用者数昨年比約1.2倍）
  - ③：バスと結節する明知鉄道主要駅にバスルート案内看板の設置
- 共通：CATVで公共交通の利用促進番組を放映（1月の市政放送）  
共通：広報誌で公共交通特集の掲載（広報えな10月号）  
共通：公共交通マップを作成（4月及び10月に発行、各6,000部）



恵那、飯沼、阿木、若村、山岡、明智の各駅

## 3.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

### 地域公共交通網形成計画における目標

項目 (H25の実績から目標値設定)	H30目標値	H25実績	H29実績
① 明知鉄道の年間利用者数	50万人	45万4398人	38万889人
② 自主運行バス利用者アンケートで、満足・やや満足と回答した利用者の割合 (全市の結果)	80%	75.9%	88.9% (H30実績)
③ 自主運行バス利用者アンケートで、最低保障の対象となっている施設 (注1)への、公共交通でのアクセス方法を理解している人の割合	80%	65.5%	74.7% (H30実績)

(注1) 最低保障の対象となっている施設・主要医療機関（恵那病院、上矢作病院、東濃厚生病院、若村診療所、山岡診療所、阿木診療所等）・主要商業施設（恵那市街地、パロ・若村店周辺、明智駅周辺、瑞浪市街地） ※全て4月1日から翌年3月31日の期間で管理

### ■目標達成状況についての考察と今後の方針

- ① 観光利用は堅調だが通学利用の減少が著しく未達成。今後は地域住民による公共交通の活用を促進し、まずは利用者の減少を食い止め、40万人を目指すことを協議会で決定した。
- ② 目標値は達成している。今後も利用者の声を聞き取り、満足度向上に向け乗継ぎ等を改善していく。
- ③ 認知度は上昇するものの未達成。利用促進活動と併せ具体的な乗継ぎ方法の周知を行う。

### 生活交通確保維持改善計画に係る目標と達成状況(上矢作線:フィーダー補助対象)

項目	H30目標値 (①及び③は上矢作線独自の調査)				評価
	H26	H29	H30		
① 利用状況	高校生の利用率を前年以上とする(9時~18時定期乗入者数+上矢作線の16歳~18歳の人口)	27.3%	36.9%	47.9%	A
	高齢者の利用率を前年以上とする(8時~16時の利用人数+上矢作線の65歳以上の人口)	51.2%	69.0%	70.5%	A
② 利用満足度	バス利用者アンケートの満足度を前年以上とする(上矢作)	74.2%	100%	93.4%	B
③ バスとの乗継	明知鉄道若村駅での乗り継ぎ客数を前年以上とする(上矢作方面から若村駅で下車された方の人数とする)	16人	20人	19人	B

### ■目標達成状況についての考察と今後の方針

- ① 利用促進の結果、高校生・高齢者利用ともに上昇した。
  - ② 鉄道との接続に考慮し改善したが、一部の方が普通の評価だった。
  - ③ 1名減少だが、人口割合としてはH27から約1%を維持している。
- 共通：次期計画では全路線に対し目標値を設定し管理する方針を協議会で決定した。
- (上矢作町 4月1日の人口 H26: 2,148人 H29: 1,956人 H30: 1,889人)



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

(別添1)

平成31年1月9日

協議会名: 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・駅名・設備名・運行(輸)送計画内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有長客方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、難鳥鉄路に係る確保維持事業において難鳥鉄路構造改善補助(調査検討の経費を除く)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	(1)上矢作線(大野-押山-岩村駅前)	前回の事業評価における改善点を踏まえて、次の事業を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 【定量的目標】 ○高校生利用率を前年以上とする。 高校生定期券購入割合前年(H29)36.9%に対して、本年(H30)47.9%と増加した。	高校生の定期券購入割合を維持できるよう努める。 通学には不可欠な路線であり引き続き運行形態の見直し等地域意見を踏まえて利便性向上に努める。
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	(2)上矢作線(横道車庫-道の駅-岩村駅前)	社健クラブ役員会及び総会で、公共交通の利用をお願いし、小中学校、こども園、社健クラブと連携し、孫とお出かけふれあい列車を運行。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 【定量的目標】 ○高齢者の利用率を前年以上とする。 高齢者人口のバス利用者割合前年(H29)69.0%に対して、本年(H30)70.5%と増加している。	高齢者人口の内、バス利用者割合を前年以上の目標とする。 引き続き利用者割合が増加するよう乗換案内等PRに努める。
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	(3)上矢作線(押山-横道車庫-岩村駅前)	明知鉄道と接続するダイヤの見直し地域公共交通マップの作成。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 【定量的目標】 ○バス利用者アンケートの満足度を前年以上とする。 前年(H29)100%に対して、本年(H30)93.4%と減少した。(一部の「普通」と評価、全体の目標値は80%以上)	地域での検討意見等ダイヤの見直しや運行形態の検討改善に努める。 共通項目として、今まではアンケートの結果を前年以上とする目標であったが、今後は具体的な目標値以上とするなど再考を行う。
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	(4)上矢作線(大野-上矢作振興事務所前-岩村駅前)	こども園、及び中学校へ訪問し、実際の車両を使った乗り方教室の開催。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 【定量的目標】 ○明知鉄道岩村駅での乗り継ぎ客数を前年以上とする。 岩村駅での乗り継ぎ客数は前年(H29)20人/日に対して、本年(H30)19人/日と減少した。(人口割合としてはH27から約9%を維持している)	上矢作線については、上記取り組みを引き続き行いつつ、地域での意見交換会やPRを行い公共交通に対する意識を高め、さらなる利用促進を図る。
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	(5)上矢作線(大野-横道車庫-岩村駅前)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	(6)上矢作線(横道車庫-道の駅-パロー岩村店)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	(7)上矢作線(大野-押山-パロー岩村店)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	

(別添1-2)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月9日

協議会名:	明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	陸上交通における地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)	基本目標: みんなで乗ろう! 乗って次世代へつなげよう! 快適で円滑な公共交通ネットワーク 基本方針: 明知鉄道4つの連携 (1) 明知鉄道の基本路線としての機能強化と新たな魅力の創出 (2) 期間路線とその支線となる交通機関との連携強化 (3) 公共交通を未来に「つなぐ」ため地域住民との連携強化 (4) 公共交通とまちづくり・観光振興との連携強化 (5) 地域公共交通運営組織間の連携強化

中部様式1

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要(全体)

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 平成26年6月12日 確保維持計画策定

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

みんなで乗ろう! 乗って次世代へつなげよう!  
 快適で円滑な公共交通ネットワークづくり

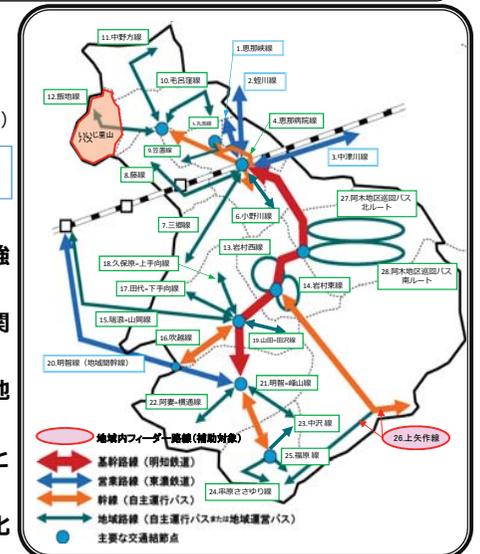
【地域の特性】

- ・恵那市・中津川市は、山間地が多くを占める岐阜県東濃地域に位置している。
- ・恵那市の人口は49,703人(H29.10.1現在)、中津川市阿木地域の人口は2,277人(H29.4.1現在)

【明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画】  
 期間 平成26~30年度

基本方針

- ① 明知鉄道の基幹路線としての機能強化と新たな魅力の創出
- ② 基幹路線とその支線となる交通機関との連携強化
- ③ 公共交通を未来に「つなぐ」ため地域住民との連携強化
- ④ 公共交通とまちづくり・観光振興との連携強化
- ⑤ 地域公共交通運営組織間の連携強化



地域公共交通網形成計画における目標

項目	H30目標値	H28実績
明知鉄道の年間利用者数	50万人	38万126人
自主運行バス利用者アンケートで、満足・やや満足と回答した利用者の割合	80%	94.6%
自主運行バス利用者アンケートで、最低保障の対象となっている施設(注1)への、公共交通でのアクセス方法を理解している人の割合	80%	78.6%

明知鉄道沿線における公共交通整備の達成状況(抜粋)

項目	H30目標値	H28実績値	備考
定期外利用者	19.5万人	16.8万人	
自主運行バスの運営に係る経費	137百万円	156百万円	H29実績
検討会を行った地区数	5地区	5地区	H26~H28 累計
年間観光客数	415万人	384万人	

生活交通確保維持改善計画に係る目標と達成状況(上矢作線:フイダ\*補助対象)

項目	H30目標値		H28	H29	評価
	高小生の利用率を前年以上とする(通学定期購入者数+上矢作町の16歳~18歳の人口)	高齢者の利用率を前年以上とする(8時~16時の利用人数+上矢作町の65歳以上の人口)			
利用状況	高小生の利用率を前年以上とする(通学定期購入者数+上矢作町の16歳~18歳の人口)	29.5%	36.9%	A	
	高齢者の利用率を前年以上とする(8時~16時の利用人数+上矢作町の65歳以上の人口)	66.0%	69.0%	A	
利用満足度	バス利用者アンケートの満足度を前年以上とする	88.9%	94.6%	A	
バスとの乗継	明知鉄道岩村駅での乗り継ぎ客数を前年以上とする	20人	20人	A	

(注1) 最低保障の対象となっている施設…主要医療機関(恵那病院、上矢作病院、東濃厚生病院、岩村診療所、山岡診療所、阿木診療所等)・主要商業施設(恵那市街地、パロー岩村店周辺、明智駅周辺、瑞浪市街地)

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的な取り組み内容

- **利用促進活動 3K** (①高齢者・②高校生・③観光客) サポート
  - ①公共交通利用促進の呼びかけ(新規:6回開催:344人)
  - ①孫とおでかけふれあい列車の運行(新規:43日間:522人推計)
  - ②夏休み割引きっぷによる支援(H28:176人→H29:325人)
  - ③岩村女城主ものがたり列車の運行(新規:24日間:166人)
- 共通:公共交通シンポジウムを開催(230人参加)
- 共通:C A T Vで公共交通の利用促進番組を放映
- 共通:公共交通マップを作成
- **いじり山バスが運行(公共交通空白地有償運送)**  
飯地線(通学利用分を除く):252人→いじり山バス:1,679人)
- **上矢作線と明鉄接続の改善及び利用促進(補助)**  
高校生の利用のため中学3年生に啓発活動と乗継の調整



暮らしに役立つ公共交通を考える会(地域検討会)の開催

地域路線のあり方検討委員会が路線再編を検討

- ・岩村・山岡各地域で住民による路線の検討委員会が発足。H30.10再編に向け検討中
- ・検討会 山岡町:6回開催 岩村町:5回開催
- ・再編案は、定時定路線+デマンド運行
- ・定時定路→観光、通学を対象
- ・デマンド→病院、買い物など町内移動を対象

ひとり世帯、高齢者を中心として、誰もが安心して利用できることに重点を置く。



◆明知鉄道の年間利用者数(平成30年度目標:50万人)

年度	H26年度	H27年度	H28年度
利用者数	422,263人	402,133人	380,126人

【目標達成状況についての考察】

企画列車(観光客サポート)や利用呼びかけ(高齢者サポート)、企業訪問などを行うも、通学利用者の減少により、利用者数が減少している。私立高校のスクール便によるところが大きい。

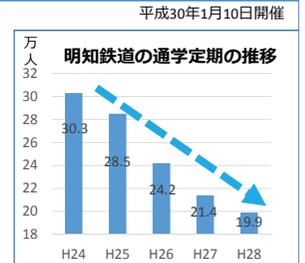
◆生活交通確保維持改善計画に係る目標と達成状況(上矢作線)

項目	目標	H27	H28	H29	状況
利用状況	高校生の利用率を前年以上とする(通学定期購入者数+上矢作町の16歳~18歳の人口)	27.9%	29.5%	36.9%	達成
	高齢者の利用率を前年以上とする(8時~16時の利用人数+上矢作町の65歳以上の人口)	60.3%	66.0%	69.0%	達成
利用満足度	バス利用者アンケートの満足度を前年以上とする	90.9%	88.9%	94.6%	達成
バスとの乗継	明知鉄道岩村駅での乗継ぎ客数を前年以上とする	20人	20人	20人	達成

【目標達成状況についての考察】

明知鉄道岩村駅で明知鉄道と上矢作線の乗り継ぎ改善や、上矢作中学3年生に対し高校通学時の上矢作線利用をPR(高校生サポート)した結果、利用率・満足度が上がった。

\*集計期間は次のとおり ①明知鉄道 H28.4~H29.3 ②バス H28.10~H29.9



5. 自己評価から得られた課題と対応方針

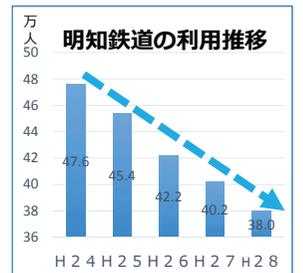
【課題】

- ①明知鉄道:利用促進を行うも、年間40万人を割り込む
- ②地域間幹線:利用者は増加するも、平均乗車密度が5人以下
- ③自主運行バス:運営に係る経費の増大
- ④共通:公共交通を「育てる」ため地域住民の参画意識の醸成

【対応方針】

- ①「観光利用」を拡大する
  - ・NHK連続ドラマ「半分、青い。」を活かした列車を運行
  - ・孫とおでかけふれあい列車を運行
- ②地域間幹線(東濃鉄道明智線)
  - ・吹越バス停で自主運行バスとの乗り継ぎを改善
- ③明知鉄道を軸としたバスとのネットワークの改善
  - ・地域路線を再編(岩村東西線・山岡各線・串原各線)
  - ・バス車両の更新とPR(上矢作線)
- ④「生活利用」を拡大する
  - ・公共交通の乗り方教室を開催
  - ・乗り換え案内等によるPR
  - ・沿線地域の企業へ訪問し、公共交通機関の利用をPR

平成31年度実施に向け、平成30年度中に**第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画**を策定



東濃鉄道明智線の状況

年度	H28	H29
輸送人員	113,719人	117,720人
平均乗車密度	2.8人	3.6人
平均運行回数(1日当たり)	14.9回	14.6回
輸送量(1日当たり)	41.1人	52.5人

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

# 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 平成26年6月12日 確保維持計画策定

## 1.直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>3Kサポートに重点的に取り組んでいるのであれば、3Kサポートに対する評価や課題、対応方向で整理した方がわかりやすい。</li> <li>読み手のわかりやすさに配慮して資料整理してほしい。</li> <li>評価において、数値が満足すればOKというわけではない。</li> <li>飯地地区の公共交通空白地有償運送について、取り組み過程での課題や新たに抽出した課題など、他地区で参考となる整理を行っていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は、利用促進を重点的に行い、3Kサポートと新規の利用促進活動をまとめて表示</li> <li>第三者評価委員会資料を基に、実績数字を入れるなどイメージ出来るように表現を工夫</li> <li>フォローアップ調査において、利用者の声を聞き取るなど、利用者の動向等についてもバス運転手にヒアリングを行った。</li> <li>飯地地区の「いいじ里山バス」の視察時に、運行の立ち上げや取り組み過程などの課題について説明を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民の利用が減少していることから、利用促進のPRを行うことで住民意識の高揚等を図りたい。そして、PDCAを回すことが出来るよう、自己評価及び第三者評価委員会にてチェックできるような資料整理を行う。</li> <li>第三者評価委員会での評価をアクションにつなげるためにも、明知鉄道を基幹路線とする恵那市、中津川市阿木地区の交通ネットワークをより充実する第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画を策定する。</li> </ul>

## 2.アピールポイント

### 「孫とおでかけふれあい列車」の運行

【目的】 高齢者と子どもに触れ合いの場、語り合いの場を提供することで、明知鉄道への利用促進につなげる。（鉄道を通じた世代間交流）

【ねらい】 高齢者の乗車への動機付けと、乗車に対するハードルを低くする

#### 【運行概要】

- 期間 夏休み期間（平成29年7月20日～8月31日）
- 対象 祖父母と乗車した子ども（壮健クラブ員：7,100人）
- 内容 ①硬券型の乗車証明書をプレゼント  
②写真撮影用のこども制服の貸し出し等

#### 【取り巻く環境】

- ・明知鉄道利用数の減少（H28年実績：40万人を割り込む）
- ・高齢者の公共交通の利用が疎遠

#### 【運行までの経緯】

- ・H29年2月3日 公共交通シンポジウム「みんなで乗ろうよ！公共交通」を開催  
230人が参加し、公共交通の存続の危機感と早期から公共交通に慣れる必要性を共有
- ・H29年5月 沿線の壮健（老人）クラブへ出向き、公共交通の利用をお願い

#### 【事業効果】

- 利用者 推計：522人（証明書配付数：261人＋付き添い1人を想定）

明知鉄道が子どもにプレゼント



(H29.7.22 岐阜新聞)

夏の思い出 硬券乗車証

【記事本文】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

（別添1）

平成30年1月10日

協議会名： 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・駅名・設備名、運行（軌）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持費において、車庫設備整備費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、難鳥地区に係る確保維持費において難鳥地区構造改善補助（調査検査の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させたか、事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション(株)	(1)上矢作線（大野-押山-岩村駅前）	前回の事業評価における改善点を踏まえ、次の事業を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 【定量目標】 ○高校生の利用率を前年以上とする。 高校生定期購入割合前年(H28)29.5%に対して、本年(H29)36.9%と増加した。	高齢生の定期購入割合を維持できるような取り組みには不可欠な路線であり引き続き運行形態の見直し等地域意見を踏まえて利便性向上に努める。
平和コーポレーション(株)	(2)上矢作線（横道車庫-道の駅-岩村駅前）	壮健クラブ役員会、及び総会で、公共交通の利用をお願いし、小中学校、こども園、壮健クラブと連携し、孫とおでかけふれあい列車を運行。明知鉄道と接続するダイヤの見直し地域公共交通マップの作成。ケーブルTVで公共交通の乗り方を放送。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ○スクールバスのある私立高校への進学率は25.5%から21.7%と減少した。 ○高齢者の利用率を前年以上とする。	高齢者人口の内、バス利用者割合を前年以上の目標とする。引き続き利用者割合が増加するよう乗換案内等PRに努める。
平和コーポレーション(株)	(3)上矢作線（押山-横道車庫-岩村駅前）		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 高年齢人口のバス利用者割合を前年(H28)66.0%に引き上げ、本年(H29)69.0%と微増している。	地域での検討意見等ダイヤの見直しや運行形態の検討改善に努め、バス利用者アンケートの満足度を前年以上の目標とする。
平和コーポレーション(株)	(4)上矢作線（大野-上矢作振興事務所前-岩村駅前）		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ○バス利用満足アンケートの満足度を前年(H28)88.9%に対して、本年(H29)94.6%と増加した。	上矢作線については、上記取り組みを引き継ぎ行いつつ、地域へのPR、また新規車両の出庫式を開催し、地域の公共交通に対する意識を高め、さらなる利用促進を図る。
平和コーポレーション(株)	(5)上矢作線（大野-横道車庫-岩村駅前）		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ○バス利用満足アンケートの満足度を前年(H28)88.9%に対して、本年(H29)94.6%と増加した。	
平和コーポレーション(株)	(6)上矢作線（大野-押山-岩村店）		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ○バス利用満足アンケートの満足度を前年(H28)88.9%に対して、本年(H29)94.6%と増加した。	
平和コーポレーション(株)	(7)上矢作線（押山-横道車庫-ハロー岩村店）		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ○バス利用満足アンケートの満足度を前年(H28)88.9%に対して、本年(H29)94.6%と増加した。	
平和コーポレーション(株)	(8)上矢作線（押山-横道車庫-ハロー岩村店）		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ○バス利用満足アンケートの満足度を前年(H28)88.9%に対して、本年(H29)94.6%と増加した。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月10日

協議会名:	明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
-------	--------------------

評価対象事業名:	陸上交通における地域内フィーダー系統
----------	--------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	基本目標:みんなで乗ろう! 乗って次世代につなげよう! 快適で円滑な公共交通ネットワーク 基本方針:明知鉄道と4つの連携 (1)明知鉄道の基本路線としての機能強化と新たな魅力の創出 (2)期間路線とその支線となる交通機関との連携強化 (3)公共交通を未来に「つなぐ」ため地域住民との連携強化 (4)公共交通とまちづくり・観光振興との連携強化 (5)地域公共交通運営組織間の連携強化
-----------------------------	--